



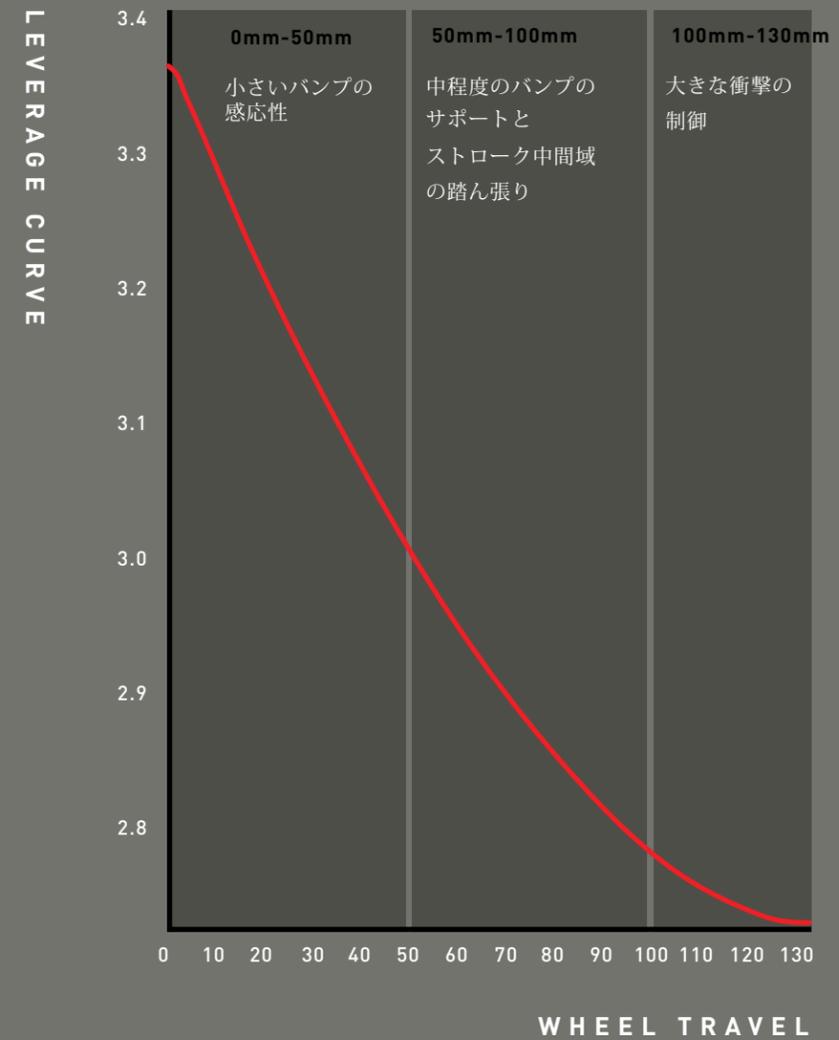
2021 STUMPJUMPER SUSPENSION



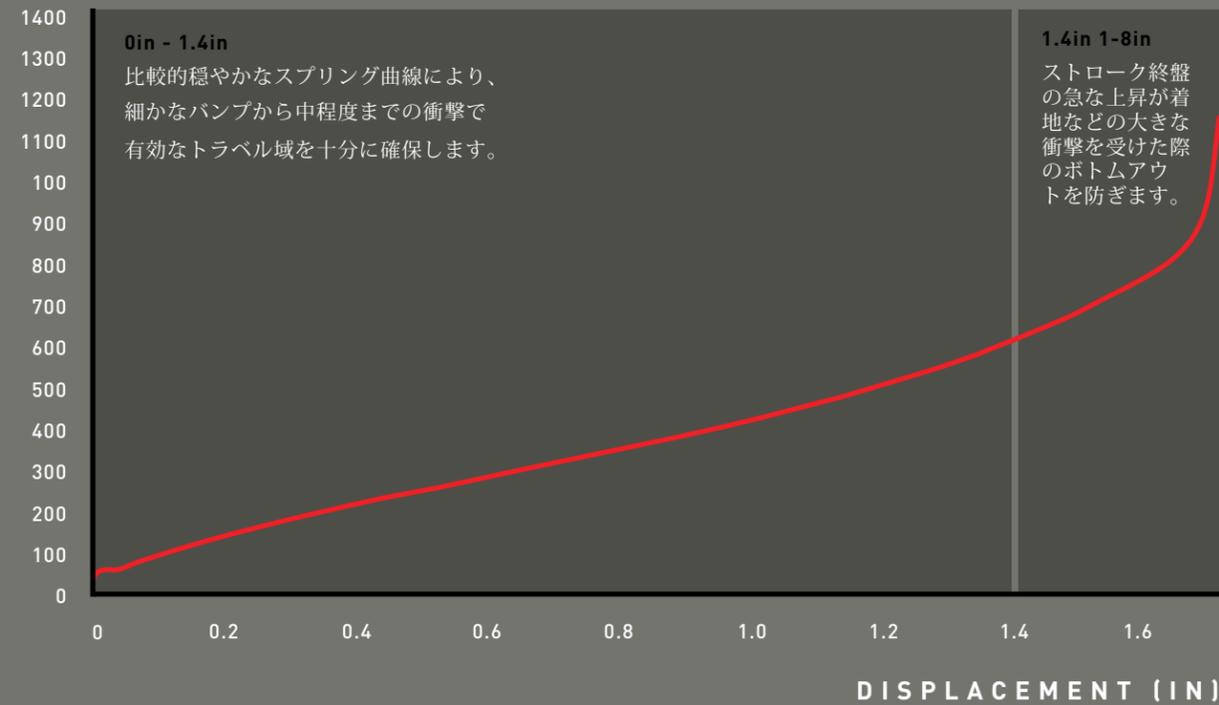
RIDER: CODY KELLEY
PHOTOS: JUSTIN OLSEN

レバレッジレシオ

Stumpjumperのレバレッジレシオはストロークにより大きく変化し、プログレッシブの強い設計になっています。このおかげで軽快でキレのある走りでありながら、サスペンションのストローク全域を有効に使うことができます。中盤までのストロークではペダリング効率に優れ、終盤ではしっかり粘ってくれます。よりトラベルの長いバイク並みの走りをミッドトラベルのトレイルバイクで実現したいなら、このリンク設計が最適なのです。



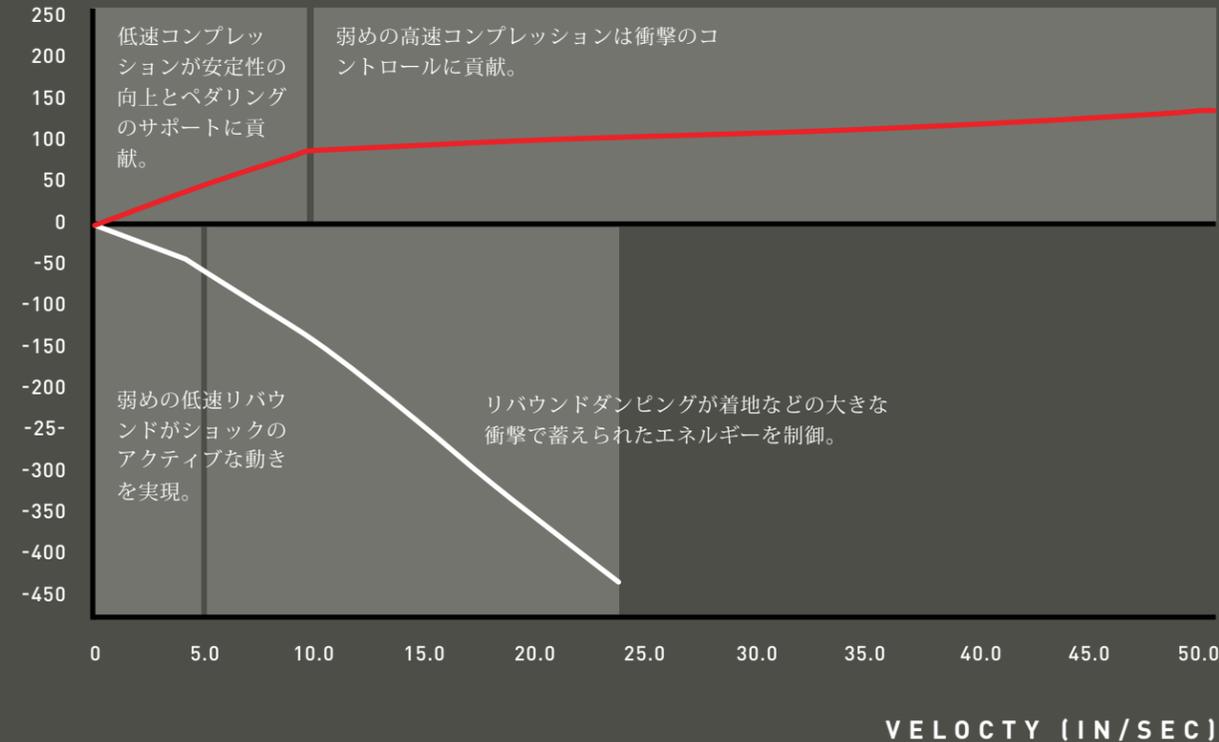
FORCE (LBS)



● スプリングのチューニング

急激に変化するStumpjumperのレバレッジレシオに調和させるため、エアスプリングの容量を増やして、より穏やかなスプリング曲線の立ち上がりを実現しました。このスプリング曲線により、ストローク終盤での粘りを十分に残したまま、一般的なトレイルコンディションで使われる中盤までのストローク域をより有効に使うことができます。

FORCE (LBS)



● コンプレッションダンピング

スペシャライズドの目標は、バンプの吸収性を損なうことなく、秀逸なペダリング効率とストローク中間域でのペダリングのしやすさを達成すること。この目標を達成すべく、Foxのディグレッシブ（徐々に緩やかになる）ピストンを用いて、角のある大きなバンプを通過したときのシャフトの動きは邪魔せず、低速コンプレッションダンピングを強化しました。荒れたセクションでは積極的に衝撃を吸収できるよう、ピストンにわずかなチューニングを施してあります。

● リバウンドダンピング

スペシャライズドがショックに掲げたもう一つの目標は、その動きを止めずに常にアクティブな状態を保ち、反応性が良いものであること。さらに、着地後などスプリングに大きなエネルギーが蓄えられたときにはリバウンド（元の長さに戻る勢い）を巧みに制御することも求めました。これはなかなかの難題ですが、私たちはプログレッシブな（大きな衝撃になるほど抵抗が増す）専用のリバウンドチューンを作りだし、その目標を達成しました。ショックは初期ストローク域ではすばやく戻りますが、スプリングに蓄えるエネルギーが最大になるボトムアウト付近では、ゆっくりと戻るようになります。



急激に変化するレバレッジレシオと、穏やかに変化するスプリング曲線を組み合わせたことで、ミッドトラベルのトレイルバイクに最適である、正確なライン選びを可能にするバイクが生まれました。実際のトレイルでは、ストロークの2/3まではもたつかず機敏に動き、それ以降は着地などの大きな衝撃も吸収してボトムアウトしないよう踏ん張ります。

徐々に戻る勢いが速まるリバウンドダンピングは、大きなバンプなどに勢いよくぶつかった際に十分に働いて穏やかにその衝撃を受け止めます。しかし、ストローク中間域では適切に弱まるため、ショックはすばやく元の長さに戻って次の衝撃に備えます。

